### アルバック精機

# 横川町と立地協定締結

### 田上建設で造成

# 建築業者を選定中

アルバック精機㈱（大久保治社長、姶良郡横川町）は、同町上ノの工場増設に伴い、内明宏県商工観光労働部企業立地推進室長立会いのもと、8日に同町と立地協定を締結した。

同町役場で行われた協定式では、福島英行横川町長と大久保社長が協定書に調印し、内室長が締結を確認した。

福島町長は「素晴らしい業績を残されている貴社がさらに工場を増設されることで、本町の活性化、産業振興に大きく貢献すると期待している」と感謝の言葉を述べた。

続いて中村静雄㈱アルバック常務・規格品質事業部長と、大久保社長が「マーケットシェア拡大のために工場増設を計画した。町の配慮に感謝するとともに、引き続きご支援をお願いしたい」、「用地確保等、町には多大なご協力をいただいた。今後も地域産業を支援していきたい」と挨拶、立会人の内室長も「地域経済浮揚に貢献し、雇用創出活性化等、本県産業界にも大きく貢献する。1日も早い操業を期待している」と祝辞を寄せた。

締結後、握手を交わす福島町長（右端）と大久保社長（左端）ら＝横川町役場で

アルバック精機㈱は、㈱アルバック（中村久三社長、神奈川県茅ケ崎市）の100％出資子会社。各種真空ポンプ・真空バルブ等を製造している。世界最大級排気容量の真空ポンプ製造など、信頼性、技術力とも世界的に高い評価を受けている。

今回の増設は、液晶ディスプレイをはじめとするフラットパネルディスプレイの設備投資が堅調であり、この分野での真空ポンプのさらなる需要拡大が予想されることから計画された。

増設予定地は面積約1万1000平方㍍、工場はS造平屋一部2階建延べ約6000平方㍍を予定しており、総事業費は約17億円、うち建屋約7億円。今月にも田上建設㈱の施工で造成に着手する。現在建築業者を選定中で、秋頃にも着工し、来年3月の操業を目指す。なお設計は永園設計㈱が担当している。

---

者会見する永田社長（左から２人目）ら
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

### グリーンピア指宿公募

# 新日本科学が落札

# 新たな研究施設に検討

年金資金運用基金が公募した「グリーンピア指宿」を落札した㈱新日本科学（永田良一社長、東京都）は8日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで記者会見を開き、「グリーンピア指宿」の利用概要について説明した。

冒頭、永田社長が当該施設は「指宿ヘルスケアパーク」と命名し、一部を無償で鹿児島大学に貸与し共同研究施設等に使用し、同施設については一体となって活用していくと述べた。

同施設は昭和60年4月に年金財政から約200億円をかけて開業。敷地は約342万平方㍍で、ホテル棟やプール、ゴルフ練習場などの施設があるが、累積赤字が約8億円に上り14年5月に営業停止した。同年6月に1回目の入札に地元ホテルが参加したが、金額が最低価格を下回り成立しなかった。このほど、同社が一般公募により、6億 契約は結ぶが引き渡し時期は未定。

同社は1957年創業の医学・薬学研究所で、トランスレーショナルリサーチ事業を主体とする医薬品開発の総合受託研究機関。今後の計画については、「予防医学」、「医療向上」、「薬理学」の各研究事業を柱としながら、横断的研究を鹿児島大学等と共同で行い、収益基盤である前臨床事業と臨床事業とのシナジー効果を持たせ、新たな事業を目指す。植物や緊急な補修などについては早急に対処し、施設については、改造も必要なので、新たな研究施設と併

---

### 住宅性能保証登録業者等講習会

# かごしま材住宅は補助も

### 県住宅センター

県住宅・建築総合センター（松井謙太郎理事長）は7日、鹿児島市の県市町村自治会館で住宅性能保証制度の登録業者を対象とした講習会を開き、この度改訂を行った設計施工基準・標準仕様等の解説を行ったほか、新たな取り組みとして今秋をめどに「かごしま材取扱店認証制度」並びに「かごしま材の家性能保証支援制度」を創設し、「かごしま材」を用いた住宅について、住宅性能保証制度登録料の3分の2を県と木造住宅推進協議会が補助していく意向を示した。

住宅性能保証制度は品確法の瑕疵担保責任をバックアップする制度で、現在本県における登録業者数及び住宅登録数は、804社、計1万9900棟（16年3月末調べ）に上っている。

当日は、建設会社や不動産関係者など約250社300人強が参加。冒頭、松井理事長は「住宅性能保証制度は、品質・安全・住みやすさ・住環境を保証するものであり、多様化する消費者のニーズへの営業戦略として活用していただきたい」と挨拶。

約300人の経営者や担当者が出席した講習会
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

引き続き、永田正人同センター審査部長兼住宅審査課長らが、同制度の独自の保証サービスである短期保証（1～2年保証・登録業者負担）の対象部分や基準など、登録業者の義務や保険金等の支払いなどの仕組みも含めて、テキストを参考に詳しく解説。また、小林昭彦住宅保証機構技術審査部長からは、保証事故の事例について「15年度（1戸建て）は全国で約300件発生し、壁・防水が約6割、基礎が約2割だが、保険支払額はその6割を基礎事故が占めている現状である」と説明があった中、このほど、新たに設計施工基準・標準仕様が改訂された『地盤調査及び基礎』や『雨水の進入を防止する部分』についても解説された。

---

### 川内市管工事業協組

# 県提出書類作成で研修

川内市管工事業協同組合（横山登理事長）は7日、同市国際交流センターで県設備設計監理事業協同組合（藤元和弘代表理事）の協力で「設備工提出書類作成」研修会を開き、県発注工事における提出書類作成上の留意点などを学んだ。講師は藤元代表理事のほか、中村俊行専務理事、永井信弘理事。

横山理事長は「提出書類は工事成績評点の対象となり入札参加資格の総合点数に反映されるので、本日はしっかり勉強してほしい」と挨拶。

藤元代表理事は「書類作成は工事成績評点の重要なポイントで、現場施工が高く評価されても書類作成で30点の評価しかとれないでは総合評価は大きく下がる。発注者側は県工事に参加する企業の誰もが書類作成はでき名をしている。ところができない人がいるから本日のような研修会が必要になる。要求される書類は複雑だという声を耳にするが、そんなことはない。基本的なことを理解していれば簡単なことだ」と指摘。①契約関係書類②検査前に提出する保守指導案内書③工事記録関係書類④工事写真関係書類について解説した。

「これら書類は必ず4冊のファイルにすること。また施工図は現場を確認できるものであれば手作りでもよいから作成し添付すること。また下請け通知書を最後まで出さなかった場合は、発注者は言葉では注意しないで即、減点の対象とする。出さないと評価が落ちることになるので注意するように」などと話した。

県設備設計監理事業協同組合では、発注者の信頼が得られる「書類作成」研修会を川内地区のほかこれまでに加世田、出水でも開催。今後も全地域

提出書類作成について学ぶ受講者
＝川内市国際交流センターで

---

### 全国コンクリートカッター工事業協組

### コンクリート切断穿孔試験合格者

# 本県では牧、森氏

全国コンクリートカッター工事業協同組合は、16年度厚生労働省認定コンクリート切断穿孔技能審査試験の合格者を発表した。受験者総数126人のうち、109人が合格し合格率は86・5％だった。部門別では「切断」が68人（合格率91・9％）、「穿孔」が41人（同78・8％）となっている。本県関係は、切断部門で牧謙二氏（㈱大隅機工）と森精二氏（アートダイヤモンド工業）が合格した。

同試験は、5月20、21日に横浜市の横浜国際総合競技場で、全国から126人の受験者が集まり、日頃鍛えた技術・技能を真剣な表情で発揮していた。

また、同日は会場内で、第6回新工法機材展も開催され、700余人の来場者が訪れる盛況ぶりを見せていた。